

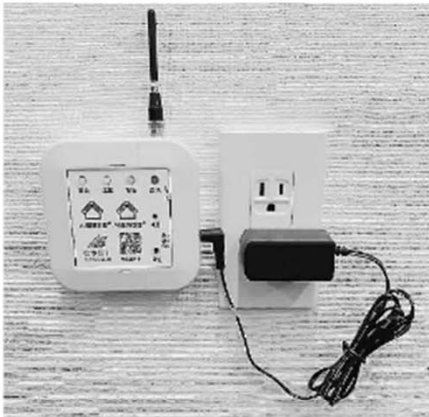
残存耐震性を見える化

耐震性・躯体性能数値化で建物資産価値も明確

松本設計ホールディングス

松本設計ホールディングス

松本設計ホールディングス（東京都国立市、松本照夫社長）は、2022年に発表したAI耐震診断とAI維持管理で耐震診断が即時に行えることか（伊藤浩教授）らから、ビルダーや工務店だけでなく、自治体か装置（センサ）を活用



即時耐震診断装置

センサはAI耐震診断の核となるもので、あらかじめ建物の耐震性能に関する情報が登録されている。地震発生後、建物の1階と2階に取り付けられたセンサが損傷状況を即座に診断。建物の安全性、避難や改修の要否を緑・黄・橙・赤の4色のLEDと音声で発信し、同時にその情報がLTE通信でデータベースへ送られる。利用者は数分後にはスマホやパソコンから詳細が確認できる。

産価値評価のサービスで、建物に対する安心を提供する。住宅の長期利用が一般的になるなかで、新築時からAI維持管理を運用すれば、設計図書などの履歴の保存と併せ、適切な時期の補修を提案する。また毎年耐震診断、維持管理報告書に二の足を踏む企業も、住宅界のスタンダードを施主に提出すること多い。当社のセンサは「にしたい」と語る。

センサは、震度3程度の小さい地震から震度7の巨大地震までの地震で建物の耐震安全性を評価でき、地震が連続して起きる場合も、1回目の地震、2回目の地震による建物の残存耐震性を評価できる。AI維持管理では、AI耐震診断のデータを活用して、躯体の残存耐震性能や経年劣化、白アリの影響などを把握し、適切な改修時期の提案や躯体の資